

教科名	技術・家庭科	校種	中学校
-----	--------	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
2年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3年	技術・家庭	必	1	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名 (教科名)		技術家庭 (技術家庭)			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付ける。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	<家庭分野> B編 衣食住の生活 1章 健康と食生活 2章 何をどれだけ食べたらよいか  3章 調理と食文化 6章 私たちの住生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割、健康に良い食習慣</li> <li>・食品に含まれる栄養素、1日分の献立作成</li> <li>・食品の選択と購入 ・地域の食文化</li> <li>・調理の基礎 ・肉・魚・野菜の調理</li> <li>・住まいの働き ・家族が暮らしやすい住まい方</li> <li>・健康を守る室内環境の整え方 ・家庭内事故の防止</li> <li>・災害に備えた安全な住まい方</li> </ul>		
2学期	<技術分野> 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み 2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の技術とは ・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワークの仕組み ・情報モラル ・情報セキュリティ</li> <li>・双方向性のあるコンテンツとは</li> <li>・問題の発見と課題の設定 ・コンテンツの構想</li> <li>・コンテンツのプログラム制作～クラス伝言板システムの制作</li> <li>・問題解決の評価、改善 修正</li> </ul>		
3学期	A編 家族と家庭生活 1章 家族・家庭や地域とのかかわり  C編 消費生活・環境 1章 私たちの消費生活 2章 消費者の権利と責任		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の一員としてできること ・家族関係をよりよくする方法</li> <li>・家庭生活と地域のかかわり</li> <li>・買い物の法律的な意味 ・いろいろな販売方法や支払い方法</li> <li>・消費者トラブルについて ・消費者を支える仕組み</li> <li>・消費者の権利と責任</li> </ul> ※生徒の実態に応じて内容、進度の変更されることがある。		
評価の観点	【知識・技能】 40 (%)	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・実技テスト ・小テスト</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【主体的に学習に取り組む態度】 30 (%)	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度 ・課題提出</li> </ul>		
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 50 % 平常点 50 %				
教科書・副教材等	● 教科書 : 技術・家庭「家庭分野」(教育図書)  新しい技術・家庭「技術分野」(東京書籍) ● 問題集 : なし ● 副教材 : なし				

科目名 (教科名)		技術家庭 (技術家庭)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付ける。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	<技術分野> 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の原理・法則と仕組み  2章 生物育成の技術による問題解決  3章 社会の発展と生物育成の技術  1編 材料と加工の技術 1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み		・生物育成の技術とは ・作物の育成環境を調節する技術 ・作物の成長を管理する技術 ・動物を育てる技術 ・水産生物を育てる技術 ・問題の発見と課題の設定 ・生物の育成計画 ・成長段階に合わせた適切な育成・問題解決の評価、改善修正 ・生物育成の技術の最適化 ・これからの生物育成の技術  ・製図		
2学期	2章 材料と加工の技術による問題解決  3章 社会の発展と材料と加工の技術 3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み		・木材、金属、プラスチックの特性 ・材料に適した加工方法 ・丈夫な製品を作るために ・問題の発見と課題の設定 ・製作品の構想、設計、計画 ・木材加工実習 ・問題解決の評価、改善 修正 ・材料と加工の技術の最適化 ・これからの材料と加工の技術  ・エネルギー変換の技術とは ・回転運動を伝える仕組み		
3学期	2章 エネルギー変換の技術による問題解決  3章 社会の発展とエネルギー変換の技術		・発電のしくみと特徴 ・電気を供給する仕組み ・電気回路について ・電気機器を安全に使用するための技術 ・問題の発見と課題の設定 ・災害対応多機能ラジオの製作実習 ・問題解決の評価、改善 修正 ・エネルギー変換の技術の最適化 ・これからのエネルギー変換の技術 ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。		
評価の観点	【知識・技能】 40 (%)	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	・定期試験 ・実技テスト ・小テスト ・作品製作		
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・定期試験 ・ワークシート ・作品製作		
	【主体的に学習に取り組む態度】 30 (%)	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	・ワークシート ・授業態度 ・課題提出		
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 50 % 平常点 50 %				
教科書・副教材等	● 教科書 : 新しい技術・家庭「技術分野」(東京書籍) ● 問題集 : なし ● 副教材 : なし				

科目名 (教科名)		技術家庭 (技術家庭)			
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。				
学期	授業の項目	内容			
1学期	<家庭分野> B 衣生活・住生活と自立 第4章 私たちの衣生活  第5章 生活を豊かにする製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の働き</li> <li>・衣服の選択</li> <li>・衣服の手入れ</li> <li>・持続可能な社会を目指して</li> <li>・生活を豊かにする製作・・・エコバック</li> </ul>			
2学期	<家庭分野> A 家族・家庭と子どもの成長 第2章 幼児の生活と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の発達、幼児の生活の特徴</li> <li>・幼児と遊び、幼児の遊びと発達のかかわり</li> <li>・幼児の知育おもちゃの製作・・・テディベア</li> </ul>			
3学期	<家庭分野> D 身近な消費生活と環境 第1章 わたしたちの消費生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会をめざして (環境にやさしいくらしの実践)</li> <li>・生活を豊かにする製作・・・エコたわし</li> </ul> <p style="text-align: right;">※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。</p>			
評価の観点	【知識・技能】 40 (%)	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・実技テスト ・小テスト</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【主体的に学習に取り組む態度】 30 (%)	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度 ・課題提出</li> </ul>		
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。</li> <li>●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。</li> </ul>				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書：技術・家庭 「家庭分野」（教育図書） 「技術分野」（東京書籍）</li> <li>●問題集：なし</li> <li>●副教材：なし</li> </ul>				

